

『水滸伝』と『楊令伝』

『水滸伝』

北方謙三著／集英社

『楊令伝』

北方謙三著／集英社

集英社文庫のこの2冊の本は、司馬遼太郎賞、出版文化特別賞を受賞しており、多くの読者の支持を受けている。『水滸伝』は19巻（各400頁弱、¥600）、『楊令伝』は15巻（各400頁弱、¥600）で、いずれも決して短編ではない。

『水滸伝』は、中国の宋時代末期において、腐敗政治によって混沌とした状況になった大国の宋に対して、「替天行道（天に替わって、世の道理を正す）」の志のもと、宋江と晁蓋という2人の頭領を含む108名の豪快、果敢な勇者たちの集団「梁山泊」の物語である。梁山湖に集結した梁山泊の面々が、きわめて多彩で斬新なアイデアを駆使して数々の戦いに勝利するものの、宋国側の童貫元帥の率いる最強軍団との激戦の末、梁山泊は没落する。この話の中では、北方謙三氏が表現する鮮烈、鮮明な人物像描写がきわめてすばらしい。寡黙で影のある武人の武松、味方からも嫌われるほど狡猾にして痛快な作戦を立てる軍師の呉用、清廉・美人しかも妖艶でもある二刀流剣士の扈三娘、体術の名手で知略家で旅芸人偽装も可能なハンサムボーイの燕青等々、北方マジックで登場人物がきわめてユニークに脚色され、かれらの大胆にして絶妙な絡み合いは、いやでも読者を強制的に話の中に取り込んでしまう面白さがある。また、戦闘描写のみではなく、政事や民政管理、法整備、資金・資源・武器・食料の資源調達などの経済管理の話も面白くまとめてあり、巷で流行っているノウハウ本や啓発本を優にしのげる啓蒙力のある本でもある。『楊令伝』は、梁山泊没落の際、頭領・宋江が宋軍に捕獲されることを阻止するため、その命を絶つ役を仰せつかった楊令が、宋江から「替天行道」の旗を託され、この物語が始まる。この顔面に赤い痣を持つ楊令は、かつて剣・槍・櫓・体術の達人の王進に師事し、2代目の頭領であり、梁山泊内の最強軍団・黒騎兵隊の隊長でもある。ここでも、北方謙三氏は、楊令を寡黙であるが比類稀なきヒーローとして鮮烈に描写している。楊令は宋国側の宿敵童貫元帥を打ち取るものの、宋側の秘密情報機関・青蓮寺の総師で狡猾な計略者でもある李富が送りこんだ刺客によって、きわめて巧妙に毒殺される。ここで『楊令伝』は終焉を迎えるが、宋国側の童貫元帥の子飼いの岳飛をヒーローにして、『岳飛伝』として、今でも話は

継続している。

私は、『水滸伝』19巻、『楊令伝』15巻を自室に常備し、1週間ぐらいの出張のときは2～3冊は持参し、仕事の合間、乗り物の中で楽しい時間を過ごしている。ちなみに、現在、3回目の『楊令伝』9巻の189頁を読んでいる。最期までに何回完読できるかを1つの楽しみにしている。皆さんも是非読んでみてください。きっとハマるだろうし、気づくと自分自身の存在が本の中にあり、梁山泊の面々と喜怒哀楽を共にしていることに、「はっ!？」とするでしょう。また、ここから人生の糧を得る人もいると考えます。

執筆者紹介

田辺 郁男

機械創造工学専攻教授。専門領域は、機械加工、工作機械、複合材料

【書名】 著者名 翻訳者名 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格
『水滸伝 [全19巻]』 北方謙三著 集英社（集英社文庫）2006-2008年 各648円
『楊令伝 [全15巻]』 北方謙三著 集英社（集英社文庫）2011-2012年 各648円

[ブックガイド目次へ](#)